

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [守山学区]

平成 25 年 9 月 5 日 (木) 午後 7 時 30 分から守山会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

守山学区にお住まいの住民 20 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも加わり、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：千代学区長より
- ②内容説明：本日進め方、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に守山学区の『まちづくりの課題と方向』について話し合いました

- 4 つのテーブルに分かれ、前回会議で出された守山学区の「よいところ」や「学区のたからもの」の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、学区のまちづくりの課題を話し合いました。
- 『学区の特徴』として、栗太郡物部村と野洲郡守山村が合併した歴史ははずせないという意見があり、『たからもの』としては、地域の神社仏閣のほか、企業と住宅が共存していることが守山学区の特長でもあるので工業団地を追加するよう意見がありました。
- 各テーブルから共通して挙げられた『まちづくりの課題』は、駅前を中心とした急激な人口増加と旧住民の高齢化に伴う「人のつながりの希薄化」「伝統行事や自治会活動の維持の難しさ」「新旧住民の関わりの難しい」などが挙げられ、また、「急激なまちの変化への対応の遅れ」や「豊富な歴史資源が活かされておらず観光の目玉がない」といった課題も挙げられました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、守山に住んで良かったと言われるまちづくり、『人』を中心とした取組が守山の課題であるとの意見が出されました。



▲結果を発表してみんなで共有

■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

- 守山学区はたからものが多いと思っていたが、それらはたからものではなく生活するうえでの基本であるという話であった。これらをベースに学区として今後何をするかということが大切である。
- 50 年後には日本の人口は半減すると言われている。その時の守山の状況を頭の片隅に置きながら、今何をするかを考える必要があると思う。高齢化や人口増加に伴う自治会活動のむずかしさなど『人』を中心とした問題が出ていたが、守山学区の問題意識は非常に強いので、今後に期待しながら引き続き考えていきたい。